Osaka University Knowledge Archive

Title	訂正、補足
Author(s)	
Citation	懐徳堂センター報. 2009, 2009, p. 119-119
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/24410
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

「三木家絵画に見る江戸時代の文人世界―三木家所蔵画幅画賛釈文」（『懐徳堂センター報』２００８　高嶋藍、湯城吉信）についての訂正、補足

本号に掲載をみた三浦梅園あて履軒書簡についての考察の共著者・岩見輝彦氏から、前号での田能村竹田「草虫図」への篠崎小竹賛につき文献追記の要があるとの通知を受けた。以下、その指摘（湯城も確認済み）の要点を述べ、訂正およびお詫びとしたい。

神田喜一郎『日本における中國文學Ⅰ』に、亀山夢研と「小竹賛」についての言及がある（同五四頁）。神田氏は、二十一「竹田の餘響」の中で、田能村竹田の填詞の継承者三人の中の一人として亀山夢研を挙げる。氏は、中之島図書館蔵『小竹斎文稿』（甲和138）に見える「書竹田生画幅」（五四頁の「小竹賛」・若干の字句の異同あり）を挙げた後に、「さうすると夢研も確かに填詞を試みたのである。何とかその作品の見つからないものであらうか」と言う。三木家所蔵田能村竹田筆「草虫図」の画賛に見える夢研作の詩餘（填詞）はまさにその作品であり、日本填詞史上、貴重な資料だったことになる。

とにかく、「小竹賛」（五四頁）については、ほぼ同文が神田喜一郎氏によって活字で紹介されており、それは「水田紀久君の調査報告してくれた所である」と明記されてもいた。『小竹斎文稿』そのものも水田氏の解題を付し上方文藝叢刊『浪華詩文稿』下（一九八〇年）に影印収録されている。しかもこの「書竹田生画幅」には「庚戌八月」と日付があるので、「小竹賛」は嘉永三年（一八五〇）の書き加えであることがわかった（五六頁の「小竹賛」も同様）。

さらに、岩見先生は、夢研作の「閨怨」は、竹田作『填詞図譜』に見える「搗練子」の平仄によるものであろうと推測されている。竹田のパトロンとして『填詞図譜』の続刊に尽力した夢研は、（若干合わない箇所はあるが）この平仄に従い、同箇所に例示される李煜の「秋閨」を参考に自作を作ったというのである。この推測による句読を施し、翻字の誤りを訂正すれば、以下のような詞だということになる（太字は翻字の訂正部分）。

閨晩

眠已醒
意初濃
黄昏猶未下簾櫳
非雨非風聲清徹
不奈唱蛩悩殺儂

（＊拙稿では末二句を「聲」「奈」で切っていた。）

現代語訳も訂正が必要であろうが、大過はないので省略させていただく。ただ、「濃」は「ぼんやりしている」というのが正確であろう。

なお、五六頁、「君子一笑之図」の翻刻の末尾「老来只漫狂」は直前の「老拙書畫揚」に小字で付されている（書き換えた）だけである。翻刻において、字も下げず字体を小さくもしなかったために、五言が五句のような誤解を与えるレイアウトになっていた。お詫びし、訂正したい。

（湯城記）